

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人瓶井学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門	自動車整備科	夜・通信	2380時間	160時間	
	電気デジタル情報科 Aコース	夜・通信	1326時間	160時間	
	電気デジタル情報科 Bコース	夜・通信	507時間	160時間	
	電子・情報工学科 Aコース	夜・通信	858時間	160時間	
	電子・情報工学科 Bコース	夜・通信	1131時間	160時間	
	建築デザイン科	夜・通信	2100時間	160時間	
	情報システム科	夜・通信	2460時間	160時間	
	ロボットシステム科	夜・通信	1004時間	320時間	
	電気工事士科	⑫・通信	975時間	45時間	
	電気工学科	⑫・通信	540時間	90時間	
	建築デザイン科	⑫・通信	1680時間	90時間	
	情報工学科	⑫・通信	280時間	45時間	
	ロボティクス科	⑫・通信	320時間	45時間	

(備考)

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

日本理工情報専門学校ホームページにて公表する

URL: http://www.nrj.ac.jp
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人瓶井学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

瓶井学園のホームページにて公表 URL: http://www.kamei.ac.jp/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) 日本管財株式会社 副センター長	平成 27 年 9 月 26 日 ～令和元年 9 月 25 日	渉外・調整
非常勤	(現職) トナミ電工株式会社 取締役会長	平成 27 年 9 月 26 日 ～令和元年 9 月 25 日	経営(産業界の動向 把握)・研修
(備考) 任期以降も、学外者である理事を2名選任します			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

シラバスにより、各試験、レポート、平常点（学習の意欲）の割合などを記載し、それによって、各教員より成績評価をする。

また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとって最終的な成績評価としている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。

- ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。
- ② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。
- ③ 客観的評価 GPA 制度について
GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。
成績評価基準と GP

成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。

GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$

*小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む

客観的な指標の算出方法の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>日本理工情報専門学校¹の教育目標</p> <p>実践的専門技術教育とともに、人間形成の一部を担いアイデンティティの確立に寄与するという理念のもと、実践力に富み、広い視野を持った、真に良識ある技術者を育成する</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 専門的な知識を修得している 3. 専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校 ¹ のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>自動車整備科（昼間2年）</p> <p>自動車整備科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と自動車整備の専門知識・技術を修得するとともに、二級自動車整備士の取得が目標であり、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 自動車整備の専門的な知識を修得している 3. 自動車整備の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校 ¹ のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気デジタル情報科 A コース (昼間 2 年)</p> <p>電気デジタル情報科 A コースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士を卒業と同時に取得でき、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電気工事士の専門的な知識を修得している 3. 電気工事士の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気デジタル情報科 B コース (昼間 2 年)</p> <p>電気デジタル情報科 B コースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士、第三種電気主任技術者の取得を目指し、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電気主任技術者の専門的な知識を修得している 3. 電気主任技術者の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電子・情報工学科 A コース (昼間 2 年)</p> <p>電子・情報工学科 A コースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の専門知識・技術を修得するとともに、陸上無線技術士資格の取得を目指す、また、工事担任者 DD 第 1 種が取得でき電子回路技術を習得して、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電子・電気・情報の専門的な知識を修得している 3. 電子・電気・情報の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電子・情報工学科 B コース (昼間 2 年)</p> <p>電子・情報工学科 B コースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の専門知識・技術を修得するとともに、工事担任者 DD 第 1 種が取得でき電子回路技術を習得して、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電子・電気・情報の専門的な知識を修得している 3. 電子・電気・情報の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

建築デザイン科（昼間２年）

建築デザイン科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と建築の専門知識・技術を修得するとともに、一級・二級建築士・二級建築施工管理技士を目指し、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、いかに定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。

1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している
2. 建築の専門的な知識を修得している
3. 建築の専門的な技能を修得している
4. 豊かな教養と広い見識を修得している

卒業の認定に関する
方針の公表方法

日本理工情報専門学校ホームページにて公表
URL: <http://www.nrj.ac.jp>

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

情報システム科（昼間２年）

情報システム科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・情報・通信の専門知識・技術を修得するとともに、情報処理技術者試験の取得が目標であり、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。

1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している
2. 電子・情報・通信の専門的な知識を修得している
3. 電子・情報・通信の専門的な技能を修得している
4. 豊かな教養と広い見識を修得している

卒業の認定に関する
方針の公表方法

日本理工情報専門学校ホームページにて公表
URL: <http://www.nrj.ac.jp>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ロボットシステム科 (昼間4年)</p> <p>ロボットシステム科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の高度な専門知識・技術を修得するとともに、ロボットの設計・制御技術を習得して、その技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、高度専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電子・電気・情報の高度な専門的な知識を修得している 3. 電子・電気・情報の高度な専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気工事士科 (夜間1年)</p> <p>電気工事士科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士を卒業と同時に取得でき、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電気工事士の専門的な知識を修得している 3. 電気工事士の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気工学科（夜間２年）</p> <p>電気工学科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士、第三種電気主任技術者の取得を目指し、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電気主任技術者の専門的な知識を修得している 3. 電気主任技術者の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>建築デザイン科（夜間２年）</p> <p>建築デザイン科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と建築の専門知識・技術を修得するとともに、一級・二級建築士・二級建築施工管理技士を目指し、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 建築士の専門的な知識を修得している 3. 建築士の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>情報工学科 (夜間1年)</p> <p>情報工学科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・情報・通信の専門知識・技術を修得するとともに、情報処理技術者試験の取得が目標であり、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電子・情報・通信の専門的な知識を修得している 3. 電子・情報・通信の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ロボティクス科 (夜間1年)</p> <p>ロボティクス科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の専門知識・技術を修得するとともに、ロボットの設計・制御技術を習得して、その技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、いかに定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 電子・電気・情報の専門的な知識を修得している 3. 電子・電気・情報の専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人瓶井学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	瓶井学園のホームページにて公表 URL: http://www.kamei.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	瓶井学園のホームページにて公表 URL: http://www.kamei.ac.jp/
財産目録	瓶井学園のホームページにて公表 URL: http://www.kamei.ac.jp/
事業報告書	瓶井学園のホームページにて公表 URL: http://www.kamei.ac.jp/
監事による監査報告（書）	瓶井学園のホームページにて公表 URL: http://www.kamei.ac.jp/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備科	平成19年文 部科学大臣 告示20号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2380 単位時間	704単 位時間	44単位 時間	1632 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		49人	35人	4人	5人	9人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
<p>(概要)</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																		
成績評価の基準・方法																		
<p>(概要)</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点) ・良 (79～70点) ・可 (69～60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPAの計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
卒業・進級の認定基準																		
<p>(概要)</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、養成施設の指定学科修了には、出席率100%が必要で、進級または、卒業することができる。</p>																		
学修支援等																		

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	30人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 自動車小売業			
(就職指導内容) 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果(資格・検定等)) 2級自動車整備士、危険物乙種四類、小型中古査定士、低圧電気取扱特別講習、各種溶接			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51人	2人	3.92%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電気デジタル 情報科Aコース	平成13年文 部科学大臣 告示25号				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2652 単位時間	1248 単位時間	273 単位時間	741 単位時間	390 単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	26人	21人	3人	11人	14人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																		
（概要） 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPAの計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
（概要） 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上（養成施設の指定学科修了には、出席率100%が必要）で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 電気工事業・家庭電機修理業			
(就職指導内容) 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果(資格・検定等)) 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士・工事担任者DD第1種 ・消防設備士甲種第4類			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	2人	9%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気デジタル 情報科 B コース	平成 13 年文 部科学大臣 告示 25 号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2 6 5 2 単位時間	1 2 8 7 単位時間	2 7 3 単 位時間	7 0 2 単 位時間	3 9 0 単 位時間	単位時間
			単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
6 0 人		1 6 人	0 人	3 人	1 1 人	1 4 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。		
成績評価の基準・方法		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。		
① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。		
② 評価は、秀 (100 点～90 点) 優 (89 点～80 点) ・良 (79～70 点) ・可 (69～60 点) ・不可 (59 点以下) で 60 点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。		
③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。		
成績評価基準と GP		
成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ * 小数点第 2 位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む		
卒業・進級の認定基準		
(概要) 設定科目の成績評価が 6 0 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3 / 4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2 / 3 以上で進級または、卒業することができる。		
学修支援等		

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 電気設備管理・電気工事業			
(就職指導内容) 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果(資格・検定等)) 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士・工事担任者 DD 第1種 ・第3種電気主任技術者			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	1人	9%
(中途退学の主な理由) 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電子・情報工学科 A コース	平成 13 年文部科学大臣告示 25 号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2808 単位時間	1794 単位時間	195 単位時間	585 単位時間	234 単位時間	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		1 人	0 人	2 人	9 人	11 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100 点～90 点) 優 (89 点～80 点) ・良 (79～70 点) ・可 (69～60 点) ・不可 (59 点以下) で 60 点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ * 小数点第 2 位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が 60 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3/4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2/3 以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 通信建設業			
(就職指導内容) 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果(資格・検定等)) 第2級陸上無線技術士・第1級陸上特殊無線技士・第3級会場特殊無線技士・低圧電気特別教育・第二種電気工事士・工事担任者DD第1種・電子機器組み立て技能士3級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電子情報工学科Bコース	平成13年文部科学大臣告示25号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2808 単位時間	1209 単位時間	195 単位時間	1170 単位時間	234 単位時間	単位時間 /単位
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		34人	21人	2人	9人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要） 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ * 小数点第2位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要） 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	1人 (7.1%)	12人 (85.7%)	1人 (7.1%)
(主な就職、業界等)			
電子・電気・機械系企業 IT・マイコン系企業 家電系企業			
(就職指導内容)			
就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
低圧電気特別教育・第二種電気工事士・工事担任者DD第1種 ・電子機器組み立て技能士3級・CAD利用技術者試験・基本情報処理試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築デザイン科	平成13年文 部科学大臣 告示25号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2130 単位時間	1320 単位時間	240単 位時間	570単 位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		15人	10人	2人	9人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	1人 (20%)	3人 (60%)	1人 (20%)
(主な就職、業界等)			
建設業			
(就職指導内容)			
就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果(資格・検定等))			
2級建築士・2級建築施工管理技士・CAD利用技術者・商業施設士補			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間/単位	480単 位時間	120単 位時間	1320 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		0人	0人	2人	9人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$</p> <p>* 小数点第2位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じて、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） IT・マイコン系企業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ロボットシステム科		平成22年 文部科学省 告示34号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	4056 単位時間/単位	1833 単位時間	351 単位時間	1560 単位時間	312 単位時間	単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	3人	0人	2人	6人	8人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
電子・電気・機械・通信・家電系企業、国家公務員			
(就職指導内容)			
就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果(資格・検定等))			
基本情報処理試験・CAD利用技術者試験・低圧電気特別教育・電気工事士 ・工事担任者試験(総合種)・無線技術士・第3種電気主任技術者			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気工事士科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜間	975 単位時間	405単 位時間	単位時間	570単 位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		6人	0人	3人	11人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$</p> <p>*小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、養成施設の指定学科修了には、出席率100%が必要で、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	1人 (25%)	3人 (75%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気工事業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士・消防設備士甲種第4類			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	1人	20%
（中途退学の主な理由） 就職のため（進路変更）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気工学科	平成14年文 部科学省告 示19号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間	1800 単位時間	900単 位時間	単位時間	500単 位時間	400単 位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		65人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	27人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 電気設備管理・電気工事業			
(就職指導内容) 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果(資格・検定等)) 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士・第3種電気主任技術者			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56人	1人	1.8%
(中途退学の主な理由) 就職のため(進路変更)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築デザイン科			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	夜間	1800 単位時間	660単 位時間	60単位 時間	1080 単位時間	
			単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人		0人	0人	2人	6人	8人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$</p> <p>*小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 建築業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2級建築士・2級建築施工管理技士・CAD利用技術者・商業施設士補			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報工学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜間	800 単位時間	560単 位時間	単位時間	80単位 時間	160単 位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		0人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$</p> <p>*小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） IT・マイコン系企業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・工事担任者・CAD利用技術者試験・基本情報処理試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ロボティクス科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜間	800 単位時間	320単 位時間	160単 位時間	160単 位時間	160単 位時間	単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		0人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。		
成績評価の基準・方法		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。		
① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。		
② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点) ・良 (79～70点) ・可 (69～60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。		
③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。		
成績評価基準と GP		
成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む		
卒業・進級の認定基準		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で、卒業することができる。		
学修支援等		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電子・機械・通信系企業 IT系企業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・電気工事士・工事担任者・CAD利用技術者試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車整備科	170,000円	1,000,000円	79,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電気デジタル情報科 Aコース	270,000円	1,140,000円	100,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電気デジタル情報科 Bコース	270,000円	1,140,000円	100,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電子・情報工学科 Aコース	270,000円	1,000,000円	79,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電子・情報工学科 Bコース	270,000円	1,000,000円	79,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
建築デザイン科	270,000円	1,000,000円	79,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
情報システム科	270,000円	1,000,000円	79,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
ロボットシステム科	270,000円	1,000,000円	81,000円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)電気工学士科	30,000円	370,000円	99,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)電気工学科	30,000円	370,000円	100,200円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)建築デザイン科	30,000円	370,000円	79,200円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)情報工学科	30,000円	370,000円	78,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)ロボティクス科	30,000円	370,000円	78,300円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 日本理工情報専門学校ホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 教育活動の成果を検証し、それを公表することにより、学生がより良い学校生活を送り満足な学修ができるような学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図ることが重要である		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
トナミ電工(株)	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	PTA 企業等委員
(有) スタジオ・マックス	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	卒業生 企業等委員
イシウエヨシヒロ建築設計事務所	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	企業等委員
なし	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	元高等学校校長
(有) 車楽工房	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	企業等委員
東洋ビルメンテナンス株式会社	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	卒業生 企業等委員
株式会社ジェイファスト	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	企業等委員
大阪府電気工事工業組合	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日 (1年)	業界団体
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL: http://www.nrj.ac.jp		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 日本理工情報専門学校ホームページにて公表 URL: http://www.nrj.ac.jp
